

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 4 3 年 度

(1969年3月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 4 3 年 度

(1 9 6 9)

京都大学結核胸部疾患研究所職員及準職員

所 長 教 授 辻 周 介

(内科学第一部門)

主任教授：内藤益一，助教授：前川暢夫，講師(非常勤)：大井 豊・吉田敏郎，助手：津久間俊次・中西通泰・川合 満・池田宣昭・中井 準，副手(非常勤)：松島留藏・清水 明・東向一郎・小沢 晃・蒲田迪子・雑賀宣二郎・田中健一・吉原宣方・岩井嘉一・山田榮一・武田貞夫・梅田文一・岩田猛邦・井上 登・太田令子・久世文幸・前田昌良，大学院：馬淵尚克

(内科学第二部門)

主任教授：辻 周介，助教授：大島駿作，講師：小原幸信，講師(非常勤)：西岡 諄・並河 靖・日置辰一郎・太田 鋤，助手：藤田 豊・泉 孝英・森岡茂治・福岡謙助・木野稔也，副手(非常勤)：小松幹雄・上田千里・熊代朗子・浅田高明・市田新路・田中久勝・小林辰雄・儀間義威・浜本武夫・中島道郎・宗実琴子・尾原潔司・岡田長保・浜本康平・野村繁雄・米田八十雄，大学院：宮城征四郎・佐藤篤彦，研修員：西田正行

(胸部外科学部門)

主任教授：長石忠三，助教授：寺松 孝，講師：佐川弥之助・岡田慶夫，講師(非常勤)：日下芳郎・中村 健・吉田 昇・加藤幹夫・山下政行・安淵義男・久野健志・大道重夫，助手：田中歳郎・池田貞雄・入見滋樹・船津武志，副手(非常勤)：山崎 昇・永井 彰・山本昭博・伊藤政敏・甲斐隆義・北野司久・浅井信明・宮本信昭・山本四郎・小野 孝・安田俊吉・石井昌生・井上律子・折田雄一・中川正清・佐藤新太郎・富中陸郎・加藤康夫・松原義人・菅原精博・立石昭三・田苗英次・山家武・安田隆三郎・伊藤元彦，大学院：東島 功・轟 文夫・大岡 剛・金 炮基，研究員：金 在河・佐藤 堯・鄭 茂松・李 在球，研修員：金 泰希・呉 海竜・張 炎森

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，講師(非常勤)：家森武夫・服部正次，助手：高橋権也・森川 茂，副手(非常勤)：児島昭徳，大学院：浅木 仁

(細菌血清学部門)

主任教授：上坂一郎，助教授：大岩弘治，講師(非常勤)：村上春彦・大平 実，助手：桂義元・竹尾漢治，副手(非常勤)：伊藤義昭・小林 博

(細胞化学部門)

主任教授：高松英雄，助教授：水谷 昭，講師：大川欣一，講師(非常勤)：峰下鎮雄・浜島義博，助手：金村泰輔・平井圭一，副手(非常勤)：進藤備昌・富永敏郎・北村 彬・溝口喜久雄・竹沢正和・永井隆男・伊藤 満・池谷淳一・熊沢 清・池田 嵩・小森昭宏・佐々木元・前田美世・藤田 一

(併 任)

教授 福田 正(京都大学医学部放射線医学教室)
教授 西尾 雅七(京都大学医学部公衆衛生学教室)
教授 岡本 耕造(京都大学医学部長，病理学教室)
教授 木村 忠司(京都大学医学部附属病院長，外科学教室)

(事務部)

事務長：石津 豊，庶務掛長：児玉安人，同主任：秋吉駿一，同事務官：近藤英子・堀田良恵・木村ちゑ子・山根大和・中川つた・同技官：母中 稔，同技能員：川原田和夫，経理掛長：松本 正，同主任：森田彰彦，同事務官：前田久男・上地稔子・坂上輝雄・中井恒博，収入掛長：藤原守二，同主任：中村睦太郎，同事務官：松本キヌ・野田芳子・児玉登枝美・佐竹セツ・室谷弘美・竹内照夫，患者掛長：鴨脚道哉，同事務官：野元頼子・室恵美子・岡野福子，管理掛長：渡辺義一，同事務官：広部誠子・城 為章，同技官：進士 悟・松浦 康・西川景曠

(附属病院)

病院長(兼)：教授：長石 忠三

(診療部) (各診療科教員定員は各研究部門の項に含む)

(第一内科診療科)

科 長(兼)：教授：内藤 益一
外来医長(兼)：助教授：前川 暢夫
病棟医長(兼)：助教授：前川 暢夫

(第二内科診療科)

科 長(兼)：教授：辻 周介
外来医長(兼)：助教授：大島 駿作
病棟医長(兼)：講師：小原 幸信

(外科診療科)

科 長(兼)：教授：長石 忠三
外来医長(兼)：助教授：寺松 孝
病棟医長(兼)：講師：岡田 慶夫

(検査部)

検査部主任(兼)：助教授：前川暢夫，技官：大槻 実・山岸悦子・木津 啓・山田愼一・平井 要・小野木照子・山田孝子・小原保代・本間トキエ・増田 稔・木村邦子・永島邦雄・小林すま子・吉村一枝

(放射線部)

放射線部主任(兼)：助教授：大島駿作，講師(非常勤)安部光幸，技師長：技官：浜川純一，撮影主任：技官：藏岡信良，技官：大坂泰夫・曾我部康之・灘井智代子

(薬剤部)

薬剤部長：技官：桑田 宏，薬剤主任：技官：沢岡平和，薬剤師：技官：在田寿子・西村淳子・金森昌子，事務官：宇野初枝・馬田保子

(看護婦)

総婦長：細川ミツエ，看護婦長：中根文子・大前久野，副看護婦長：北村トミ子・小林とよ・松田比佐子，看護婦：技官：古府静江・岩永千代子・高市政子・安部克己・近藤信子・松本敏枝・山崎保子・田中松代子・小林梅野・谷村明子・芥藤千鶴子・竹崎浄子・山田さだ子・松宮なを子・松田富子・明石和子・松本喜美子・丸井早苗・井藤泰子・曾我部京子・稲垣美智子・片岡吉子・滝本千代・藤田道子・中山美智恵・宮崎香・弘岡満理子・可原敏子・小林富貴子・伊藤節子・西田つや子・蓮本幸子，看護助手：技官：高田よし系・広川 一枝・能井美千代

業 績 目 録

内 科 学 第 1 (主任 教授 内 藤 益 一)

〔学 会 発 表〕

- 1) 内藤益一，前川暢夫，吉田敏郎，津久間俊次，川合 満，池田宣昭：肺結核初回化学療法における SM, INH, TH, EB 4 者併用法，第65回日本内科学会講演会 一座長 村尾 誠 (昭43.4.3)
- 2) 内藤益一，津久間俊次他：N²-(2-Benzothiazolyl)-3-allyl pseudothiohydantion 及びその aryl 誘導体の合成並びに結核菌に対する抗菌作用，薬学会総会 (昭43.4.7)
- 3) 内藤益一，津久間俊次他：チオ尿素誘導体の合成と結核菌に対する抗菌力について，薬学会総会 (昭43.4.7)
- 4) 前川暢夫，川合 満，岩井嘉一，蒲田迪子，馬淵尚克，太田令子，武田貞夫，山田栄一，岩田猛邦，梅田文一：抗結核剤過敏症状に対する副腎皮質ホルモンの大量・短期間使用の試み，第43回日本結核病学会総会 (昭43.4.9)
- 5) 内藤益一：薬剤耐性菌感染，第43回日本結核病学会総会シンポジウム (座長) (昭43.4.10)
- 6) 中井準：薬剤耐性菌感染，第43回日本結核病学会総会シンポジウムⅢ 一座長 内藤 益一 (昭43.4.10)
- 7) 前川暢夫：肺結核再治療における強化化療術式の効果，第43回日本結核病学会総会シンポジウム特別発言 一座長 杉山浩太郎 (昭43.4.11)
- 8) 内藤益一，前川暢夫，吉田敏郎，津久間俊次，川合 満：KM・TH・EB・CS 4 者併用方式について，第43回日本結核病学会総会要望課題 一座長 島村喜久治 (昭43.4.11)
- 9) 内藤益一，前川暢夫，川合 満，蒲田迪子，太田令子，馬淵尚克，武田貞夫，山田栄一，岩田猛邦，梅田文一：TH の副作用軽減の工夫特に持効性カプセルの使用について，第16回日本化学療法学会総会 (昭43.5.11)
- 10) 前川暢夫，津久間俊次，池田宣昭，武田貞夫，梅田文一：各種の抗酸性菌に対する化学療法剤の制菌作用，第16回日本化学療法学会総会 (昭43.5.11)
- 11) 津久間俊次：新抗結核剤をめぐって，国立大学研究所結核座談会 (昭43.6.7)
- 12) 前川暢夫，吉田敏郎，津久間俊次，中西通泰，山田栄一，武田貞夫，岩田猛邦，梅田文一，井上昇：クリプトコッカス症を併発したホジキン氏病の1症例，第8回日本胸部疾患学会総会 一座長 福島 孝吉 (昭43.7.10)
- 13) 前川暢夫，中西通泰，太田令子，馬淵尚克，武田貞夫，山田栄一，岩田猛邦，梅田文一，井上昇：葉間肋膜蓄水を呈した2症例，第66回日本内科学会近畿地方会 (昭43.9.21)

- 14) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: *p*-Bromosalicyloyl hydrazone 類の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌力について, 薬学会近畿支部総会 (昭43.11.10)
- 15) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: *p*-Ethoxyphenylthiourea 誘導体の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 薬学会近畿支部総会 (昭43.11.10)
- 16) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: 6-Formyl-2-methoxydiphenylether, 4-Formyl-2,3'-dimethoxydiphenylether, 及び 4-Formyl-2,4'-dimethoxydiphenylether 誘導体の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 薬学会近畿支部総会 (昭43.11.10)
- 17) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: 4-Formyl-2-methoxydiphenylether 並びに 4-Formyl-2-hydroxydiphenylether 誘導体の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 薬学会近畿支部総会 (昭43.11.10)
- 18) 内藤益一, 津久間俊次, 馬淵尚克他: Diphenylether 並びに Depsidon 系化合物の人型結核菌 H37Rv 株に対する抗菌作用について, 薬学会近畿支部総会 (昭43.11.10)
- 19) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次, 川合 満, 岩井嘉一, 岩田猛邦, 梅田文一, 井上 昇: Rifamycin AMP の抗結核性に関する基礎的研究 (1) in vitro の成績, 第16回日本化学療法学会中日本支部総会 (昭43.11.30)
- 20) 内藤益一, 前川暢夫, 津久間俊次, 川合 満, 太田令子, 馬淵尚克, 山田栄一, 武田貞夫: Rifamycin AMP の抗結核性に関する基礎的研究 (2) in vivo の成績, 第16回日本化学療法学会中日本支部総会 (昭43.11.30)
- 21) 前川暢夫: 抗結核薬の副作用とその軽減法, 第16回日本化学療法学会中日本支部総会特別講演 (昭43.11.30)
- 22) 川合満他: 非定型抗酸菌症の3例, 日本結核病学会第34回近畿地方会および日本胸部疾患学会第4回近畿地方会シンポジウム 一座長 堀三 津夫 (昭43.12.4)
- 23) 前川暢夫, 津久間俊次, 川合 満, 久世文幸, 馬淵尚克: 非定型抗酸菌症3例について, 第67回日本内科学会近畿地方会 (昭43.12.7)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 内藤益一, 津久間俊次他: 結核菌に対する化学療法剤の研究(第20報) Orcilaldehyde, β -Orcilaldehyde, Atranol および Divaraldehyde 誘導体の合成ならびに抗菌作用について, 薬学雑誌, 88: 1264-1269 (1968)
- 2) 内藤益一, 津久間俊次, 蒲田迪子, 太田令子他: 結核菌に対する化学療法剤の研究(第21報) 2-Pyridylthiourea, 4-Antipyrinyl thiourea および 2-Benzothiazoly thiourea 誘導体の合成並びに抗菌作用について, 薬学雑誌, 88: 1428-1432 (1968)
- 3) 前川暢夫, 津久間俊次, 蒲田迪子, 岩井嘉一, 雑賀宣二郎: 4-4' Diisoamyloxythiocarbanilide の試験管内抗結核菌作用に関する研究, 京大胸部研紀要, 2: 147-154 (昭43.9)
- 4) 蒲田迪子: δ -Hydroxy- γ -L-Norvaline (HON) の抗結核菌作用に関する研究 [第3篇] HON と諸種抗結核薬との試験管内併用効果並びに相互薬剤間の耐性上昇形式, 京大胸部研紀要, 2: 124-136 (昭43.9)

内 科 学 第 2 (主任 教授 辻 周 介)

〔学 会 発 表 ・ 講 演〕

- 1) 辻 周介, 大島駿作, 口置辰一郎, 中島道郎, 福岡謙助, 野村繁雄, 宮城征四郎, 高橋権也, 森岡茂治, 小原幸信, 浜本康平, 尾原潔司, 木野稔也: 呼吸困難を伴う慢性疾患にかんする臨床的研究(第1報) 分類にかんする予備的検討, 第65回日本内科学会講演会 (昭43.4.1)

- 2) 辻 周介, 大島駿作: 人尿中の抗結核性因子, 第20回実験結核研究会総会(昭43.4.8)
- 3) 福間謙助, 野村繁雄, 宮城征四郎, 木野稔也, 辻 周介: 肺洗滌法による結核腫の治療, 第43回日本結核病学会総会(昭43.4.9)
- 4) 大島駿作: ツベルクリンアレルギーの transfer, シンポジウム I “結核の免疫とアレルギー”, 同上(昭43.4.9)
- 5) 上坂一郎, 大岩弘治, 安平公夫, 小原幸信, N. M. McClung: Pathogenicity of *Nocardia* sp. for mice, 68th Annual Meeting, American Society for Microbiology (1968. 5. 8.)
- 6) 辻 周介: 肺結核の内科50年, 近江サナトリウム講演会(昭43.5.25)
- 7) 小原幸信, 森岡茂治, 泉 孝英, 辻 周介: Kreim 反応成立機序に関する一考察, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7.11)
- 8) 中島敏夫, 伊藤文雄, 辻 周介, 小原幸信: 肺胞蛋白症の1例, 同上(昭43.7.11)
- 9) 森岡茂治: 免疫学的立場から, 自由集会“サルコイドーシスの病像と本態をめぐって”, 同上(昭43.7.11)
- 10) 小原幸信: 肺癌の発生に関する実験的研究, 特に 20 MC 注入ラット肺の初期変化について, シンポジウム I “肺癌の組織発生”, 第12回肺癌学会関西支部会(昭43.7.27)
- 11) 小原幸信: 肺癌における“いわゆる癌反応”の試み, シンポジウム II “肺疾患における血清学的所見”, 同上(昭43.7.27)
- 12) 辻周 介: Passive Transfer of Contact Hypersensitivity with Non-viable Cellular Constituents in Guinea Pigs, 日米医学協力計画第3回総会(昭43.8.6)
- 13) 辻 周介, 宮城征四郎, 佐藤篤彦: 肺葉性気腫性変化を伴う気管支囊腫の二症例, 第66回日本内科学会近畿地方会(昭43.9.21)
- 14) 小原幸信, 安平公夫: 肺癌の発生に関する実験的研究(9), ラッテ肺扁平上皮癌の組織発生—電顕による検索, 第9回日本肺癌学会総会(昭43.10.13)
- 15) 泉 孝英: 加齢と免疫(特にマウスを用いた新生児結核免疫), 昭和43年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会(昭43.10.19)
- 16) 辻 周介, 泉 孝英, 宮城征四郎: EAE(実験的アレルギー性脳脊髄炎)発症の促進と抑制(第2報), 第18回日本アレルギー学会総会(昭43.10.23)
- 17) 泉孝英: Mycobacteria の Adjuvant 作用に関する研究(第1報) マウスのアナフィラキシー感作における Mycobacteria 単独の Adjuvant 作用, 同上(昭43.10.24)
- 18) 中島敏夫, 伊藤文雄, 藤野道友, 辻 周介, 小原幸信: 肺胞蛋白症の1例(第Ⅲ報), 日本結核病学会中四国第19回地方会(昭43.10.26)
- 19) 泉 孝英: 結核免疫における経気道感染法と腹腔内感染法の比較, 第21回実験結核研究会総会(昭43.10.27)
- 20) 小松幹雄, 泉 孝英, 福間謙助, 森岡茂治: 非定型抗酸菌症の7例, 公募シンポジウム“非定型抗酸菌症”, 日本結核病学会第34回近畿地方会, 日本胸部疾患学会第4回近畿地方会合同学会(昭43.12.4)
- 21) 辻 周介, 木野稔也, 南風原英之: 肺癌と誤診された Wegener's granulomatosis の1例, 第67回日本内科学会近畿地方会(昭43.12.7)
- 22) 中島道郎, 日置辰一郎, 小原幸信, 福間謙助: 肋膜萎縮のため胸廓変形を来した肺癌の症例, 第13回肺癌学会関西支部会(昭44.1.25)
- 23) 辻 周介, 大島駿作, 木野稔也, 尾原潔司: 本教室における肺癌治療の現況について—特に⁶⁰Co 照射治療に関連して—, 同上(昭44.1.25)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 辻 周介, 大島駿作, 泉 孝英, 福間謙助, 野村繁雄, 宮城征四郎, 森岡茂治, 高橋権也, 尾原潔司, 木野稔也, 日置辰一郎, 中島道郎: 非特異的慢性肺感染症180例の検討, 日本胸部臨床, 27:108, 昭43.
- 2) 泉 孝英: 加齢と遅延型アレルギー, 医学のあゆみ, 65:199, 昭43.
- 3) 泉 孝英: 免疫反応の細胞学, 医学のあゆみ, 65:588, 昭43.

- 4) 泉 孝英：非定型抗酸菌の感染と発病，医学のあゆみ，66：115，昭43.
- 5) 辻 周介，泉 孝英，木野稔也：肺癌患者の免疫機能（第1報）肺癌患者における免疫グロブリンおよびMycobacterium に対する抗体の変動，医学のあゆみ，66：174，昭43.
- 6) 大島駿作：ツベルクリンアレルギーの transfer，結核，43：335，昭43.
- 7) 野村繁雄：Immune Deviation に関する研究（第2篇）人工粒子状抗原による遅延型アレルギーの抑制，京大胸部研紀要，2：55，昭43.
- 8) 福間謙助：接触過敏症の伝達因子に関する研究（第2篇）伝達因子の抗原特異性に関する研究，京大胸部研紀要，2：137，昭43.
- 9) 小松幹雄，大岩弘治，上坂一郎：培養不能の真菌による膿胸の1例，京大胸部研紀要，2：155，昭43.
- 10) 泉 孝英：Slide Monolayer Technique，医学のあゆみ，67：128，昭43.
- 11) 泉 孝英：腫瘍免疫における血清抗体の可能性，医学のあゆみ，67：355，昭43.
- 12) 日置辰一郎：慢性肺癌と肺膿瘍，日本臨牀，26：2677，昭43.
- 13) 辻 周介：免疫の進歩，遅延型アレルギーの側から，医人薬人，18：7，昭44.

胸 部 外 科 学 部 （主任 教授 長 石 忠 三）

〔特別講演，招請講演，シンポジウム，パネルディスカッション等〕

- 1) 寺松 孝，安瀨義男，山下政行，小林君美，磯部喜博，他：耐性例の外科的療法の問題点，第43回日本結核病学会総会シンポジウム「耐性菌肺結核の外科」（昭43.4）
- 2) 佐川弥之助，田中歳郎，甲斐隆義，浅井信明，安田隆三郎，中川正清：肺結核手術例の機能的予後 — とくに長期観察例を中心として — 第43回日本結核病学会総会シンポジウム（昭43.4）
- 3) 佐川弥之助：肺高血圧症 — 肺血管抵抗を中心として — 第68回日本外科学会総会シンポジウム「肺高血圧症」（昭43.4）
- 4) 岡田慶夫：肺癌における癌免疫の諸問題，第68回日本外科学会総会シンポジウム「外科領域における癌免疫の諸問題」特別発言（昭43.4）
- 5) 長石忠三：肺結核外科の50年，近江サナトリウム創立50周年記念特別講演（昭43.5）
- 6) 伊藤元彦：肺癌の細胞診，第9回日本臨床細胞学会総会スライド・ディスカッション（昭43.6）
- 7) 岡田慶夫：肺化膿症の診断上の問題点，第11回日本胸部外科学会関西地方会シンポジウム「外科側からみた最近の肺化膿症」（昭43.6）
- 8) 寺松 孝：外科側からみた最近の肺化膿症，第11回日本胸部外科学会関西地方会シンポジウム 座長（昭43.6）
- 9) 小林君美：手術々式と手術成績，第11回日本胸部外科学会関西地方会シンポジウム「外科側からみた最近の肺化膿症」（昭43.6）
- 10) Nagaishi, C.: From the Prof. Monaldi's Endocavitary Aspiration to Our Cavernostomy and Cavernoplasty, Special Lecture at the 30th Anniversary of Monaldi's Endocavitary Aspiration and the Annual Meeting of Italian Society of Tuberculosis, at Salsomaggiore and Parma, Italy (昭43.6)
- 11) Nagaishi, C.: Our Efforts towards the Improvement of Thoracoplasty, and the Cavernoplasty as a Result, Main Speaker at the Symposium at the Giessen University, Germany (昭43.7)
- 12) 岡田慶夫，折田雄一，大道重夫：肺胞領域の上皮細胞とその腫瘍化，第12回肺癌学会関西支部会シンポジウム「肺癌の組織発生」（昭43.7）
- 13) 池田貞雄，轟 文夫：肺癌における特異抗原の検索およびそれを指標とした血清学的診断の試み，第12回肺癌学会関西支部会シンポジウム「肺癌患者における血清学的所見」（昭43.7）
- 14) 北野司久，伊藤元彦：肺癌に対する切除療法と化学療法との併用，とくに術前後における制癌剤の大量投与について，第12回肺癌学会関西支部会シンポジウム「肺癌の化学療法」（昭43.7）

- 15) Nagaish, C.: Co-Chairman of the International Committee on Lung Surgery at Washington, D. C., U. S. A. (昭43.10)
- 16) Nagaishi, C.: "Cardiac Resuscitation." Fireside Conference at the Xth International Congress on Diseases of the Chest, Washington, D. C., U. S. A. (昭43.10)
- 17) 長石忠三: 笹本教授教育講演「肺性心」座長特別発言, 第21回日本胸部外科学会 (昭43.10)
- 18) 寺松 孝, 山崎 昇, 小林君美, 山下政行: 耐性菌排出肺結核における術後合併症の原因とその対策, 第21回日本胸部外科学会総会シンポジウム「耐性菌排出肺結核の外科療法」(昭43.10)
- 19) 岡田慶夫: 術前後における制癌剤の大量投与について, 第21回日本胸部外科学会総会シンポジウム「手術を中心とした肺癌の合併治療」(昭43.10)
- 20) 岡田慶夫: 肺癌の電顕像, 第9回日本肺癌学会総会トピックス (昭43.10)
- 21) 長石忠三: 肺癌の診断, 第7回全国自治体病院学会特別講演, 高知市 (昭43.11)
- 22) 長石忠三: 肺癌の診断, 湖北医学会特別講演, 長浜市 (昭43.11)
- 23) 寺松 孝: 臓器移植, 近畿地方医務局主催講習会招請講演 (昭43.11)
- 24) 岡田慶夫: 肺疾患に対する各種生検法・厚生省近畿医務局, 国立療養所医師講習会招請講演 (昭43.11)
- 25) 岡田慶夫: 肺癌の選択的細胞診, とくに肺穿刺細胞診について, 第7回日本臨床細胞学会秋季大会シンポジウム「直接採取法による細胞診」(昭43.11)
- 26) 寺松 孝: 肺癌の早期診断, 岐阜県医師会講習会招請講演 (昭43.12)
- 27) 磯部喜博: 同一施設に5カ年以上入院中の肺結核患者の検討とこれに対する対策, 日本結核病学会第34回近畿地方会・日本胸部疾患学会第4回近畿地方会合同学会シンポジウム (昭43.12)
- 28) 吉田 昇: 同一施設に5カ年以上入院中の肺結核患者の検討とこれに対する対策, 日本結核病学会第34回近畿地方会・日本胸部疾患学会第4回近畿地方会合同学会シンポジウム (昭43.12)
- 29) 寺松 孝: 「移植免疫なる観点から」, ACCP 日本支部総会シンポジウム「心肺移植の基礎と臨床」(昭44.3)

〔一 般 講 演〕

- 1) 人見滋樹, 宮本信昭, 石井昌生: 交叉循環による被働性感作効果の異常な延長現象について, 第16回日本輸血学会総会 (昭43.4)
- 2) 岡田慶夫, 池田貞雄, 北野司久, 伊藤元彦, 轟 文夫: 肺癌における癌免疫の問題, とくに腫瘍抗原の分析について, 第68回日本外科学会総会 (昭43.4)
- 3) 寺松 孝, 矢崎次郎, 人見滋樹, 宮本信昭, 小林君美, 井上律子, 加藤康夫, 船津武志, 清水慶彦, 外村聖一, 石井昌生: 最近の肺化膿症について, 第68回日本外科学会総会 (昭43.4)
- 4) 長石忠三, 寺松 孝: 空洞形成術, 第68回日本外科学会総会 (展示) (昭43.4)
- 5) 伊藤元彦, 池田貞雄, 轟 文夫, 岡田慶夫: 肺癌に対する穿刺細胞診, 第9回日本臨床細胞学会総会 (昭43.6)
- 6) 轟 文夫, 池田貞雄, 北野司久, 伊藤元彦, 岡田慶夫: われわれの経験した縦隔腫瘍症例について, 第11回日本胸部外科学会関西地方会 (昭43.6)
- 7) 吉栖正之, 石井昌生, 小野 孝: 無輸血肺手術の検討, 第11回日本胸部外科学会関西地方会 (昭43.6)
- 8) 秋山文弥, 伊東政敏, 他1名: 総肺静脈環流異常症の手術経験, 第11回日本胸部外科学会関西地方会 (昭43.6)
- 9) 秋山文弥, 伊東政敏, 他1名: 修正大血管転移を伴う心疾患3例の手術経験, 第11回日本胸部外科学会関西地方会 (昭43.6)
- 10) 畠中陸郎, 吉栖正之, 石井昌生, 小野 孝: 外傷性横隔膜ヘルニアの症例, 第11回日本胸部外科学会関西地方会 (昭43.6)

- 11) 井上律子, 加藤康夫, 清水慶彦, 小林君美, 松本宏海: 心臓粘液腫の1例について, 第11回日本胸部外科学会関西地方会(昭43.6)
- 12) 寺松 孝: 結核性肺空洞に対する空洞形成術(長石・寺松)の実際, 第103回近畿外科学会(昭43.6)
- 13) 高安正夫, 中尾訓久, 石川嘉市郎, 浅井信明, 佐川弥之助: 閉塞性凝血性大動脈症(所謂高安病)の肺循環に関する研究, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 14) 山本四郎, 田苗英次, 田中歳郎, 佐川弥之助: 頸動脈小体刺戟の循環動態に及ぼす影響(第1報), 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 15) 久野健志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: Morphometry からみた肺の Static Mechanical Property の再検討, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 16) 田苗英次, 田中歳郎, 佐川弥之助: 慢性肺塞栓の実験的研究, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 17) 田中歳郎, 浅井信明, 甲斐隆義, 大岡 剛, 佐川弥之助: 慢性 Anoxia に対する肺血管反応について, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 18) 岡田慶夫, 折田雄一, 長石忠三: 肺線維症における肺胞上皮細胞の変化, とくに腺腫様増殖について, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 19) 折田雄一, 岡田慶夫, 長石忠三: 肺胞, とくにその上皮細胞の微細構造の比較形態学的研究, 第8回日本胸部疾患学会総会(昭43.7)
- 20) 寺松 孝, 加藤康夫, 宮本信昭: 交叉循環後における血液動態, 第5回術後代謝研究会(昭43.7)
- 21) 井上律子, 小林君美, 加藤康夫, 松本宏海, 他1名: 大動脈弁閉鎖不全症に対する人工弁置換例の1例, 第50回岐阜外科集談会(昭43.7)
- 22) 清水慶彦, 小林君美, 井上律子, 加藤康夫, 松本宏海: 縦隔鏡検査の経験, とくにその意義について, 第6回中部外科学会総会(昭43.8)
- 23) 寺松 孝, 石井昌生: 老人胸腺の組織学的再検討, 第10回日本老年医学会総会(昭43.8)
- 24) Nagaishi, C.: Present Situation of Lung Cancer in Japan and the Results of Our Operation, at the X th International Congress on Diseases of the Chest, Washington, D. C., U. S. A. (昭43.10)
- 25) 市谷迪雄, 吉田 昇, 甲斐隆義, 中川正清, 佐川弥之助: 肺結核手術例の機能的予後 — とくに長期観察例を中心として(第2報), 第21回日本胸部外科学会総会(昭43.10)
- 26) 秋山文弥, 伊東政敏, 中納誠也, 他1名: 高年者, 特に梅毒性大動脈弁膜症に対する外科治療の経験, 第21回日本胸部外科学会総会(昭43.10)
- 27) 日下芳郎, 鄭茂松, 寺松 孝, 船津武志, 人見滋樹, 呉 海竜: 肺結核術後膿胸の根治手術に関する最近の経験, 第21回日本胸部外科学会総会(昭43.10)
- 28) 船津武志, 人見滋樹, 他1名: “Mediastionoskopie” 映画供覧, 第21回日本胸部外科学会総会(昭43.10)
- 29) 佐川弥之助, 田中歳郎, 東島功: 高圧環境下における肺生理学的研究(第1報) 換気および換気力学を中心として, 第3回日本高気圧環境医学会総会(昭43.10)
- 30) 岡田慶夫, 池田貞雄, 轟 文夫: 肺癌に特異的な抗原性物質の分析とその臨床診断法への応用, 厚生省がん研究助成金による「がんの特異的な変化を応用する診断法の開発に関する研究」班班会議(昭43.10)
- 31) 轟 文夫, 池田貞雄, 伊藤元彦, 岡田慶夫: 肺癌患者血清中の Necrotizing Factor について, 第9回日本肺癌学会総会(昭43.10)
- 32) 佐藤新太郎, 轟 文夫, 池田貞雄, 伊藤元彦, 岡田慶夫: 気管支内異物(魚骨)の刺戟によって発生したと思われる肺癌の1例, 第9回日本肺癌学会総会(昭43.10)
- 33) 北野司久, 池田貞雄, 伊藤元彦, 轟 文夫, 折田雄一, 岡田慶夫: 癌の移植免疫に関する実験的研究(第5報), Diffusion Chamber 内の MC 腫瘍増殖におよぼす感作リンパ球の影響, 第27回日本癌学会総会(昭43.10)

- 34) 池田貞雄, 北野司久, 伊藤元彦, 轟 文夫, 折田雄一, 松原義人, 岡田慶夫: 肺癌における腫瘍抗原の検索, 第27回日本癌学会総会(昭43.10)
- 35) 伊藤元彦, 池田貞雄, 北野司久, 轟 文夫, 折田雄一, 松原義人, 岡田慶夫: 肺癌手術の補助化学療法, 第6回日本癌治療学会総会(昭43.10)
- 36) 井上律子, 松本宏海, 清水慶彦, 加藤康夫, 小林君美: 縦隔鏡検査の経験について, 第23回国立病院療養所総合医学会(昭43.10)
- 37) 加藤康夫, 松本宏海, 清水慶彦, 井上律子: Cross-Circulation Disease における 6 MP の免疫抑制効果, 第23回国立病院療養所総合医学会(昭43.10)
- 38) 加藤康夫, 松本宏海, 清水慶彦, 小林君美: ディスポーザブル人工心肺の使用経験について, 第23回国立病院療養所総合医学会(昭43.10)
- 39) 清水慶彦, 小林君美, 井上律子, 加藤康夫: 僧帽弁閉鎖不全症に対する人工弁置換術の経験, 第23回国立病院療養所総合医学会
- 40) 加藤康夫, 松本宏海, 清水慶彦, 井上律子, 小林君美: 肺結核に対する肺切除術の複合術式の検討, 第32回日本結核病学会東海地方会(昭43.11)
- 41) 寺松 孝, 人見滋樹, 船津武志, 石井昌生, 宮本信昭: 臓器移植に関する基礎的研究(第5報), 交叉循環後 Wasting Syndrom を来たして死亡した家兎の病理学的ならびに病理組織学的研究, 第4回日本移植学会総会(昭43.11)
- 42) 寺松 孝, 人見滋樹, 船津武志, 呉 海竜, 張 炎森: 臓器移植に関する基礎的研究(第6報), 交叉循環に際しての白血球成分の被働性感作効果について, 第4回日本移植学会総会(昭43.11)
- 43) 伊東政敏, 他2名: 移植免疫の臨床的判定法に関する研究(予報), ペニシリン過敏症および気管支喘息患者の白血球を用いた抗原抗体反応, 第4回日本移植学会(昭43.11)
- 44) 加藤康夫, 井上律子, 他3名: Cross-Circulation Disease における 6 MP の免疫抑制効果について, 第4回日本移植学会総会(昭43.11)
- 45) 清水慶彦, 松本宏海, 加藤康夫, 井上律子, 小林君美: 肺疾患における縦隔鏡検査の診断学的応用について, 第14回日本胸部疾患学会東海地方会(昭43.11)
- 46) 岡田慶夫, 伊藤元彦: 肺穿刺細胞診とその細胞学的応用, 大阪細胞診研究会(昭43.12)
- 47) 吉栖正之, 小野 孝, 仲 武敏, 他3名: 心室中隔欠損症兼大動脈等閉鎖不全症に対する人工弁置換の1例, 第104回近畿外科学会(昭43.12)
- 48) 田中歳郎, 東島 功, 佐川弥之助, 他: 気管支肺胞系の入力インピーダンス, 第18回肺気腫研究会(昭44.1)

〔著 書〕

- 1) 寺松 孝: 肺結核症(外科方面から)「今日の治療指針, 1968」医学書院(昭43.5)
- 2) 長石忠三: 気管食道科学分担執筆, 医学書院(昭43.10)
- 3) 長石忠三, 佐川弥之助, 加藤幹夫: 「肺の生理・病態生理」現代外科学大系30巻のA(昭43.12)
- 4) 長石忠三, 岡田慶夫, 長沢直幸, 山下政行, 稲葉宣雄: 「肺・気管支の解剖および組織」現代外科学大系30巻のA(昭43.12)
- 5) 長石忠三, 寺松 孝: 「肺結核の直達療法, とくに空洞切開術および空洞形成術を中心とする切開排膿療法」, 現代外科学大系30巻のB(昭44.1)

〔誌 上 発 表〕

- 1) Morihisa Kitano and Yoshio Okada: A Study on Transplantation Immunity of Ehrlich Ascites Tumor and Methylcholanthrene-induced Tumor in Mice with Special Reference to Local Immunity of Lymph Nodes Draining the Site of Sensitization, 京大胸部研紀要(昭43.3)

- 2) Hidetsugu Tanae: Experimental Study of Pulmonary Microembolism in Rabbits, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 3) 長石忠三, 岡田慶夫: 肺癌の手術予後に関する臨床的ならびに病理学的検討〔前篇〕臨床的検討, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 4) 北野司久: 腫瘍の移植免疫に関する実験的研究〔第1篇〕Ehrlich 癌のマウスの皮下ならびにリンパ節内移植に対する免疫の影響〔第2篇〕腹腔内挿入 Diffusion Chamber 内での Ehrlich 癌の発育に及ぼす免疫の影響〔第3篇〕Methylcholanthrene 腫瘍のマウスの皮区ならびにリンパ節内移植に対する免疫の影響〔第4篇〕腹腔内挿入 Diffusion Chamber 内での MC 腫瘍の発育に及ぼす免疫の影響, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 5) 安田隆三郎: 肺機能に及ぼす ⁶⁰Co 照射の影響に関する臨床的ならびに実験的研究〔第1篇〕臨床的研究〔第2篇〕実験的研究, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 6) 山本博昭: 気管支遮断術の基礎的研究, とくに血管遮断を併せ行なう場合を中心として〔第1篇〕健常犬の肺葉気管支を単純に遮断した場合の諸変化について〔第2篇〕1肺葉気管支の遮断に併せ肺血管をも遮断した場合の諸変化について〔第3篇〕肋膜癒着作成後に気管支および肺動脈をあわせて遮断した場合の諸変化について, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 7) 源河圭一郎: 人の肺癌細胞の電子顕微鏡的研究〔第1篇〕人の肺癌細胞の一般的な微細構造〔第2篇〕組織像別にみた肺癌細胞の微細構造〔第3篇〕人の肺癌の発生源地に関する電子顕微鏡的研究, とくに肺泡領域からする発癌について, 京大胸部研紀要 (昭43.3)
- 8) T. Teramatsu: Pulmonary Tuberculosis Surgery and Kanamycin, Asian Medical Journal, Vol. 11, No. 5 (昭43.5)
- 9) 佐川弥之助: 局在性アノキシアの肺循環に及ぼす影響 (座談会) 現代の臨床, 2巻, 5号 (昭43.5)
- 10) 寺松 孝: 胸部外科, とくに肺外科領域における合成樹脂の応用, 外科治療, Vol. 19, No. 21 (昭43.8)
- 11) 伊東政敏, 秋山文弥, 折田雄一, 他: 大動脈弁狭窄症の手術経験, 日本胸部外科学会雑誌, 16巻, 8号 (昭43.8)
- 12) 小林君美, 井上律子, 加藤康夫, 船津武志, 清水慶彦, 他: 動脈管開存症の診断, 医療, 22巻, 8号 (昭43.8)
- 13) 長石忠三, 岡田慶夫, 轟 文夫: 肺癌に対する針生検 (needle biopsy), 胸部外科, 21巻, 9号 (昭43.9)
- 14) 岡田慶夫, 佐藤新太郎: 幼小児にみられた原発性肺がんの1例, 日本臨床, 29巻, 6号 (昭43.9)
- 15) 佐川弥之助, 市谷迪雄, 甲斐隆義, 安田隆三郎, 中川正清: 拘束性肺疾患における心病変 — 肺結核を中心として —, 肺と心, 15巻, 3号 (昭43.9)
- 16) 金 泰希: 肺疾患々者における呼吸困難の研究 — とくに呼吸筋筋電図を中心として —〔第1篇〕呼吸困難の呼吸筋筋電図学的研究〔第2篇〕低酸素, 炭酸ガスおよび呼吸抵抗負荷時における呼吸筋筋電図学的研究, 京大胸部研紀要, 2巻, 1号 (昭43.9)
- 17) 土肥佳郎: 粘性抵抗負荷の換気力学的研究 — 呼吸タイプの変化に関する一考案, 京大胸部研紀要, 2巻, 1号 (昭43.9)
- 18) 小林君美, 井上律子, 船津武志, 清水慶彦, 人見滋樹, 他: 動脈血栓を合併した Lutembacher 症候群の1治験例, 胸部外科, 21巻, 9号 (昭43.9)
- 19) 秋山文弥, 伊東政敏, 折田雄一, 他: ヘパリン拮抗剤としてのレプチラーゼ, 診療と新薬, 5巻, 9号 (昭43.9)
- 20) 伊東政敏: 組織培養法による移植免疫の研究, 京大胸部研紀要, 2巻, 1号 (昭43.9)
- 21) 轟 文夫, 池田貞雄, 北野司久, 伊藤元彦, 松原義人, 岡田慶夫: 胸腔内巨大嚢腫を伴った甲状腺癌の1治験例, 胸部外科, 21巻, 10号 (昭43.10)
- 22) 長石忠三: 年頭所感 “First Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest (APCDC) および第9回日本胸部疾患学会々長としての抱負” 医学のあゆみ, 68巻 (昭44.1)
- 23) 長石忠三: 心移植と和田教授, 胸部外科, 22巻, 3号 (昭44.3)

- 24) 田中歳郎：局在性アノキシアにおける肺血管反応の研究〔第1篇〕病態生理学的ならびに病理形態学的研究〔第2篇〕作用機序に関する研究，京大胸部研紀要，2巻，2号（昭44.3）
- 25) 甲斐隆義：交感神経の肺内分布に関する研究，Falck-Hillarp の螢光法を応用して，京大胸部研紀要，2巻，2号（昭43.3）
- 26) 佐川弥之助：肺動脈硬化，現代医療，2号（昭44.3）
- 27) 宮本信昭：交叉循環に関する実験的研究，京大胸部研紀要，2巻，2号（昭44.3）

病 理 学 部 （主任 教授 安 平 公 夫）

〔学 会 発 表〕

- 1) 安平公夫，宗実琴子：剖検にみる結核死 — 化学療法開始前後の比較，第57回日本病理学会総会（1968, 4）
- 2) Uesaka, I., Ohiwa, K., Yasuhira, K., Kobara, Y. and N. M. McClung: Pathogenicity of *Nocardia* sp. for mice, 68th Annual Meeting, American Society for Microbiology (1968. 5)
- 3) 上坂一郎，小林 博，桂 義之，安平公夫：ノカルジアのマウス感染に及ぼす大腸菌，ブドウ球菌の影響，第20回国立大学研究所結核座談会（1968, 6）
- 4) 安平公夫：肺癌の組織発生 — 序論，第12回日本肺癌学会関西支部会シンポジウム（1968, 7）
- 5) 小林 博，安平公夫，上坂一郎：マウスに於ける *Cryptococcus neoformans* 静脈内感染経過に及ぼす大腸菌又はその内毒素の影響(1)，第21回日本細菌学会関西支部会総会（1968, 9）
- 6) 上坂一郎，小林 博，安平公夫：マウスの *Nocardia* 感染に及ぼす大腸菌の影響 (1) 微生物学的所見，第12回日本真菌学会総会（1958, 10）
- 7) 安平公夫，小林 博，上坂一郎：マウスの *Nocardia* 感染に及ぼす大腸菌の影響 (2) 病理学的所見，第12回日本真菌学会総会（1968, 10）
- 8) 小原幸信，安平公夫：肺癌の発生に関する実験的研究 (9) ラッテ肺扁平上皮癌の組織発生 — 電顕による検索，第9回日本肺癌学会総会（1968, 10）
- 9) 高橋権也，安平公夫：マウスに静脈注射された 20-methylcholanthrene の臓器内分布及び排泄 — オートラジオグラフィー及びカラムクロマトグラフィーの比較，第27回日本癌学会総会（1968, 10）
- 10) 安平公夫：発癌と免疫 — 化学発癌に及ぼす生下時胸腺切除の影響への疑義，第27回日本癌学会総会(1968, 10)
- 11) 竹田俊男：マウス顎下腺に関する実験的研究 I マウス顎下腺の胸腺および淋巴組織に対する抑圧作用について，II マウス顎下腺静脈 effluent にみられる昇圧物質について，第13回日本唾液腺シンポジウム（1968. 12）

〔誌 上 発 表〕

- 1) 安平公夫：Freund の Adjuvant 使用による肺癌の実験的発生，文部省研究報告集録，「がん」特別研究42年度報告集録 208 頁
- 2) Yasuhira, K.: Skin papilloma production by Anthralin painting after urethan initiation in mice, *Gann* 59 : 187-193 (1968)
- 3) Yasuhira, K.: Induction of malignant lymphoma and other tumors during experiments with Anthralin painting of mice, *Gann* 59 : 195-200 (1968)
- 4) 安平公夫：肺胞蛋白症，*日本臨床* 26 ; 2678-9(1968)
- 5) Morikawa, S., Yamamura, M., Harada, T. and Hamashima, Y.: Studies on cross-reactivity of antiribonuclease antisera with heterologous mammalian ribonucleases, *J. Histochem. Cytochem.*, 16 ; 410-418 (1968)

- 6) Takeda, T. and Grollman, A.: The inhibitory action of the submaxillary salivary gland on the thymus and lymphoid tissues of the mouse, *Am. J. Physiol.*, 215(6) :1337-1342 (1968)
- 7) Morikawa, S. and Harada, T.: Immunohistochemical localization of catarrase in mammalian tissues, *J. Histochem. Cytochem.*, 17: 30-35 (1969)
- 8) Yasuhira, K.: Suspicious influence of thymectomy on skin papilloma induction, *Gann*, 60: 57-64 (1969)
- 9) 安平公夫: 発癌と免疫(2)化学発癌, 京大胸部研紀要, 2 : 177, (1969)

細胞化学部 (主任 教授 高松 英雄)

〔学 会 発 表〕

- 1) 高松英雄, 金村泰輔: Fatty acid synthetase の組織化学, 第57回日本病理学会総会 (昭43.4.1)
- 2) Mizutani, A. and Fujita, H.: Significance of fixation for the demonstration of ornithine carbamoyltransferase activity. (Read by title) 19th General Meeting of the Histochemical Society (U. S. A.) (April 8, 1968.)
- 3) 水谷 昭, 藤田 一: 電子顕微鏡による OCT 活性の証明, 日本電子顕微鏡学会第24回学術講演会 (昭43.5.12)
- 4) 平井圭一: 自然酸化に伴うジアミノベンチジン中間体のヘム蛋白質に対する特異的親和性, 日本生化学会近畿支部15回例会 (昭43.6)
- 5) Takamatsu, H. and Hirai, K.: "Nadi" reaction in myeloid leucocytes and Vitamin K. 3rd International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, New York (Aug., 1968.)
- 6) Hirai, K. and Takamatsu, H.: Oxidized amine dye and hemoproteins. 3rd International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, New York (Aug., 1968.)
- 7) Takamatsu, H. and Kanamura, S.: Histochemistry of fatty acid synthetase. 3rd International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, New York (Aug., 1968.)
- 8) Mizutani, A.: Histochemical studies on ornithine carbamoyltransferase activity. 3rd International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, New York (Aug., 1968.)
- 9) 平井圭一, 進藤備昌, 高松英雄: ヘム蛋白の細胞化学: ペルオキシゾームと関連した肝, 腎カタラーゼ (ハイドロペルオキシターゼ) の顕微鏡的証明, 第9回日本組織細胞化学会総会 (昭43.11)
- 10) 水谷 昭, 藤田 一: Acetylphosphate および carbamoyl phosphate の加水分解酵素に関する電子顕微鏡的観察 同上 (同上)
- 11) 大川欣一, Pani, P.: コリン欠乏飼料飼育ラット肝の酵素組織化学的研究 同上 (同上)
- 12) 大川欣一: フォファチド酸フォスファターゼ活性に関する組織化学的研究 同上 (同上)
- 13) 大川欣一: フォスファターゼ類の組織化学的研究 同上 (同上)
- 14) 大川欣一: コリン脱水素酵素系の組織化学的研究 同上 (同上)
- 15) 金村泰輔: 脂肪肝における脂肪酸合成酵素の組織化学的研究 同上 (同上)

〔誌 上 発 表〕

- 1) Takamatsu, H. and Hirai, K.: Nadi reaction of myeloid leucocytes and Vitamin K, *Acta Histochem, Cytochem.*, 1: 1, 1968.
- 2) Hirai, K.: Specific affinity of oxidized amine dye (radical intermediate) for heme enzymes: Study in microscopy and spectrophotometry, *Ibid.*, 1: 43, 1968,

- 3) Mizutani, A. and Fujita, H.: Cytochemical studies on hydrolysis of carbamoyl phosphate in rat liver, *Ibid.*, 1: 79, 1968.
- 4) Takamatsu, H. and Kanamura, S.: Demonstration of fatty acid synthesizing enzymes, *Ibid.*, 1: 114, 1968.
- 5) Kanamura, S.: Histochemical studies of fatty acid synthesizing enzymes in fatty livers induced by ethionine, carbon tetrachloride and ethanol, *Ibid.*, 1: 124, 1968.
- 6) Mizutani, A.: Cytochemical demonstration of ornithine carbamoyltransferase activity in liver mitochondria of rat and mouse, *J. Histochem. Cytochem.*, 16: 172, 1968.
- 7) Mizutani, A. and Fujita, H.: Hydrolysis of carbamoyl phosphate in the endoplasmic reticulum and nuclear envelope of rat liver, *Ibid.*, 16: 546, 1968.
- 8) Mizutani, A. and Fujita, H.: Significance of fixation in the cytochemical demonstration of ornithine carbamoyltransferase activity — with special reference to aldehyde perfusion, *Bull. Chest Dis. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 2: 1, 1968.

細菌血清学部 (主任 教授 上坂 一郎)

[学 会 発 表]

- 1) 上坂一郎: Nocardia の分類, 第41回日本細菌学会総会シンポジウム, 放線菌分類に関する諸問題 (昭43.4.3)
- 2) 大岩弘治: 代謝活性無細胞培養液を用いての鼠ライ菌培養の試み (第2報), 第41回日本細菌学会総会 (昭43.4.3)
- 3) 大岩弘治: 代謝活性無細胞培養液を用いての鼠ライ菌培養の試み (第2報), 第41回日本細菌学会総会 (昭43.4.26)
- 4) 上坂一郎, 大岩弘治, 安平公夫, 小原幸信, N. M. McClung: Pathogenicity of Nocardia sp. for Mice, 68th Annual Meeting, American Society for Microbiology (May 8, 1968)
- 5) 上坂一郎, 小林 博: マウスに於けるノカルジアの感染経過に及ぼす大腸菌, ブドウ球菌の影響 (第2報), 日本放線菌研究会, 昭和43年度講演会 (昭43.5.31)
- 6) 上坂一郎, 桂 義之, 小林 博, 安平公夫: ノカルジアのマウス感染に及ぼす大腸菌, ブドウ球菌の影響, 第20回国立大学結核集団会 (昭43.6.7)
- 7) 大岩弘治, 竹尾漢治: 代謝活性, 無細胞培養液を用いての鼠ライ菌培養の試み, 同上 (昭43.6.7)
- 8) 大岩弘治: A new approach to the cultivation of *Mycobacterium lepraemurium* in metabolically active, cell-free medium, U. S.-Japan Cooperative Medical Science, Leprosy Panel Meeting (August 5-7, 1968.)
- 9) 小林 博, 安平公夫, 上坂一郎: マウスに於ける *Cryptococcus neoformans* 静脈内感染経過に及ぼす大腸菌又はその内毒素の影響 (第1報), 第21回日本細菌学会関西支部総会 (昭42.9.23)
- 10) 上坂一郎, 小林 博, 安平公夫: マウスの Nocardia 感染に及ぼす大腸菌の影響, 1. 微生物学的影響, 第12回日本医真菌学会総会 (昭43.10.10)
- 11) 安平公夫, 小林 博, 上坂一郎: 同上, 2. 病理学的所見, 同上 (昭43.10.10)

人 事 異 動 (43.2.22~44.1.16)

(内科学第一部門)

講師 (非常勤) 大井 豊: 任用を更新する (昭43.4.1)

副手(非常勤) 松島留蔵・清水 明・東向一郎・小沢 晃・蒲田迪子・雑賀宣二郎・田中健一・吉原宣方・岩井嘉一・山田栄一・武田貞夫・梅田文一・岩田猛邦：任用を更新する(昭43.4.1)

井上 昇・太田令子：副手(非常勤)に採用する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 田隅朝緒：退職(昭43.4.1)

助手 中井 準：アメリカ合衆国へ出張(昭43.5.31～)

教授 内藤益一：大韓民国へ出張(昭43.6.26～昭43.6.30)

講師 吉田敏郎：国立京都療養所に転任させる(昭43.7.1)

吉田敏郎：講師(非常勤)に併任(昭43.8.1)

久世文幸・前田昌良：副手(非常勤)に採用する(昭43.9.1)

(内科学第二部門)

講師(非常勤) 西岡 諄・並河 靖・日置辰一郎・酒井 章：任用を更新する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 小松幹雄・上田千里・熊代朗子・浅田高明・市田新路・田中久勝・小林辰雄・儀間義威・浜本武夫・中島道郎・宗実琴子・岡田長保・浜本康平：任用を更新する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 尾原潔司：副手(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

野村繁雄・米田八十雄：副手(非常勤)に採用する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 喜舎場朝和：退職(昭43.4.1)

講師(非常勤) 酒井 章：辞職を承認する(昭43.8.15)

太田 勳：講師(非常勤)に採用する(昭43.9.1)

(胸部外科学部門)

講師(非常勤) 日下芳郎・中村 健・加藤幹夫・山下政行・久野健志：任用を更新する(昭43.4.1)

講師(非常勤) 吉田 昇・安淵義男：講師(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

大道重夫：講師(非常勤)に採用する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 山崎 昇・山本博昭・伊藤政敏・北野司久・浅井信明・山本四郎・小野 孝・安田俊吉・石井昌生・折田雄一・島中陸郎・松原義人・菅原精博・立石昭三・田苗英次・山家 武：任用を更新する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 永井 彰・甲斐隆義・宮本信昭・井上律子・中川正清・佐藤新太郎・加藤康夫：副手(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

安田隆三郎：副手(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

伊藤元彦：副手(非常勤)に採用する(昭43.4.1)

副手(非常勤) 大道重夫：退職(昭43.4.1)

教授 長石忠三：タイ国・イタリア国・オーストリア国・スイス国・ドイツ連邦共和国・フランス国へ出張(昭43.6.23～昭43.7.20)

技官 小野木照子：スウェーデン国・デンマーク国・オランダ国・フランス国・西ドイツ国・スイス国・イタリア国・オーストリア国へ渡航(昭43.8.3～昭43.8.23)

教授 長石忠三：アメリカ合衆国へ出張(昭43.9.28～昭43.10.12)

(病理学部門)

助手(医学部) 竹田俊男：助教授に昇任させる(昭43.4.1)

家森武夫：講師(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

服部正次：講師(非常勤)に採用する(昭43.4.1)

助手 森川茂：アメリカ合衆国へ出張(昭43.8.8～昭44.8.31)

児島昭徳：副手(非常勤)に採用する(昭43.9.1)

(細菌血清学部門)

竹尾漢治：助手に採用する(昭43.4.1)

講師(非常勤) 大平 実：講師(非常勤)に併任する(昭43.4.1)

講師（非常勤） 村上春彦：任用を更新する（昭43.4.1）

副手（非常勤） 伊藤義昭・小林 博：任用を更新する（昭43.4.1）

（細胞化学部門）

講師（非常勤） 峰下鎮雄：任用を更新する（昭43.4.1）

副手（非常勤） 進藤備昌・富永敏郎・北村 彬・溝口喜久雄・竹沢正和・永井隆男・伊藤満・池谷淳一・熊沢清・池田 嵩・小森昭宏・佐々木元・前田美世・藤田 一：任用を更新する（昭43.4.1）

浜島義博：講師（非常勤）に採用する（昭43.5.1）

教授 高松英雄・助手 金村泰輔・平井圭一：アメリカ合衆国へ出張（昭43.8.15～昭43.8.30）

（事務部）

事務官 北川喜代三郎：辞職を承認する（昭43.3.31）

進士 悟：技官に採用する（昭43.4.1）

高安忠一：用務員に採用する（昭43.4.1）

松浦 康：文部技官に任官させる（昭43.4.1）

事務官（患者掛長） 鈴庄清二：農学部附属農場京都事務掛長に配置換する（昭43.5.1）

事務官（農学部附属農場京都事務掛長） 鴨脚道哉：結核胸部疾患研究所患者掛長に配置換する（昭43.5.1）

事務官（医学部附属病院業務課保険掛長） 北川治康：結核胸部疾患研究所事務長補佐に昇任させる（昭43.9.1）

事務官 野本 滋：医学部附属病院管理課に配置換する（昭43.9.16）

技能員 田中 稔：文部技官に任官させる（昭44.1.1）

〔附属病院〕

（検査部）

技官 川嶋敬子：辞職を承認する（昭43.4.30）

用務員 吉村一枝：文部技官へ任官させる（昭43.7.1）

（放射線部）

安部光幸：講師（非常勤）に併任する（昭43.7.1）

事務官 野元頼子：患者掛へ所属替（昭44.7.1）

（看護婦）

技術補佐員（医学部附属病院） 小林富貴子：文部技官（看護婦）に採用する（昭43.3.16）

伊藤節子：文部技官（看護婦）に採用する（昭43.3.16）

技官（看護婦） 山本米子・逢坂千代子；（看護助手） 赤江妻子・富山屋寿・当座キサノ：辞職を承認する（昭43.3.31）

西田つや子：文部技官（看護婦）に採用する（昭43.4.1）

技官（看護婦） 瀬々茂子：辞職を承認する（昭43.6.15）

速本幸子：文部技官（看護婦）に採用する（昭43.9.1）

技官（看護婦） 谷口美智子・山川サチ子：辞職を承認する（昭43.12.15）

技官（看護婦） 紺谷邦子：北海道大学医学部附属病院看護部へ出向させる（昭44.1.16）

西村文子：技官（看護婦）に採用する（昭44.2.1）

（薬剤部）

技官 楠田英男：医学部附属病院薬剤部に配置換する（昭43.7.16）

技官（医学部附属病院薬剤部） 沢岡平和：結核胸部疾患研究所附属病院薬剤部薬剤主任に昇任させる（昭43.7.16）

Bull. Chest Dis. Inst., Kyoto Univ. の投稿規定

- 1) 原稿は概ね投稿順に掲載する。
- 2) 原稿は本文、写真、図、表を含めて刷上り英文の場合は12頁以内、和文の場合は8頁以内とする。同一主題の論文の同時掲載は3篇を限度とする。以上を超過した場合は編集委員会において協議の上決定する。但し、この場合は超過料を徴収する。
参考：英文の場合A4版ダブルスペース、タイプ印刷3枚で刷上り約2頁、和文の場合は1,600字で刷上り約1頁
- 3) 英文は、ダブルスペース、タイプ印刷、和文はひらがな交り、横書きとし、字画及び句読点を明瞭に記すこと。
- 4) 外国人名は外国綴のままとし、頭文字は大文字で、その他は小文字でタイプ又は印刷体で書くこと。
- 5) 度量衡の書き方は、m, cm, l, ml, g mg等の記号を用い、記号の後に省略符号・を附さないこと。
- 6) 本文原稿に写真、図、表等の挿入場所を明示のこと。
- 7) 綜説及び原著に引用された文献は、引用された順番に番号を附して末尾に一括して記載すること。尚、雑誌の場合は著者名、標題、誌名（一般に通用する略名でよい）、巻、頁、年（西歴）の順に、著書の場合は著者名、書名、発行所、発行年（西歴）頁の順に記載のこと。

参考例：

- 1) Root, R. K. and Wolff, S. M. : Pathogenic

mechanism in experimental immune fever, J. Exp. Med., 128 : 309 ~ 323, 1968.

- 2) 渡辺喜久雄：クリオグロブリンの免疫学的研究，アレルギー，11：18～40，1962.
- 3) Schwartz, R. S. : Immunosuppressive therapy. In Immunopathology, Ed. by Miescher, P.A. and Grabar, P., Schwabe and Co., Basel, 1967, pp. 360.
- 4) 佐竹一夫：クロマトグラフィ，赤堀四郎 篇酵素研究法1，朝倉書店，東京，1957, pp. 365.

尚連名の場合は2名迄は参考例1)に従うが、3名以上の場合は最初の著者名のみを記し、その他は英文の場合は“et al.”(イタリック)、和文の場合は“他”を用いること。

- 7) 写真、図、表は英文の場合は、写真及び図は凡て Figure を用い、表は Table を用いる。和文の場合は、写真(又は図)、図、表とする。

参考例：Figure 3 or Fig. 3

写真3(又は図3)、表5

- 8) 和文原稿の場合は英文抄録(A4版ダブルスペース、タイプ印刷1頁程度)を添付のこと。
- 9) ランニングヘッド(英文の場合50レタース以内、和文の場合30字以内)を附すること。
- 10) 別刷に要する費用は凡て個人負担とする。